

史跡 北黄金貝塚

北海道伊達市にある北黄金貝塚は、紀元前 5000～3500 年頃の遺跡です。考古学者たちは、大規模な貝塚、複数の人間の遺体、およびさまざまな人工物を発掘してきました。これらは、複雑な祭祀が行われていた証拠です。この貝塚は、海岸から数百メートル離れた、内浦湾に面した丘の斜面にあります。この遺跡の入口には博物館があり、多言語で情報が提供され展示が行われています。

貝塚での発見

北黄金貝塚では、5 つの貝塚が発見されています。これらの貝塚には、海の二枚貝・カキ・ウニの殻や、魚・オットセイ・クジラ・シカなどの動物の骨が含まれています。貝塚の中や下から墓穴が発見されたことは、貝塚が祭祀上重要な場所だったことを示唆しています。貝塚の 1 つからは、儀式によって埋葬された人間の遺体が 14 体と、クジラの骨やシカの角を彫った飾りのあるスプーンが出てきました。別の貝塚からは、意図的に並べられたシカの頭蓋骨が発見されています。

貝塚と海岸線

貝塚は、海岸の近くに作られました。時とともに海岸線が遠ざかり、この貝塚の位置は丘の中腹になりました。一番古い貝塚が最も高いところにあり、その他の貝塚の位置は順に低くなっています。気候が寒冷になって海面が下がり、約 1500 年をかけて海岸線が遠ざかっていったのです。

食料と生活

出土した人間の遺体の研究から示唆されるのは、北黄金貝塚の住人たちが肉より多くの魚を食べており、木の実を食べる量はそう多くなかった、ということです。これらの遺体の骨には、魚や他の海洋生物に由来する蛋白質が多く含まれています。虫歯は木の実が多く食べられていたことを示しますが、この遺跡で見つかった歯に虫歯は全くありません。

おそらく、魚を獲ることが主な生存手段だったのでしょう。貝塚の随所では、石でできた網につける重りや、角でできた釣り針や銚尖といった道具が発見されています。

祭祀に関する石器の出土

この丘のふもとにある泉の近くでは、大量の石器が発見されています。この地域が発掘されると、すり石・すり鉢などの石器が、はっきり見えるように土に埋まっていた。これらの多くは、意図的に壊されたり、わざと傷つけられ捨てられたもののように見えます。これらの品は、遺跡の住人たちにとって象徴的な意味を持つ祭祀によってここに捨てられた、と考古学者たちは考えています。これらの道具がこういった方法で捨てられた理由は分かりませんが、これらの道具自身や、集落での暮らしを支えた水に対する感謝の表現だったのかもしれないと、複数の考古学者が推測しています。

北黄金貝塚情報センター

北黄金貝塚情報センターは、この遺跡からの出土品と、貝塚の1つの実際の断面図を展示しています。この断面図で見える骨と貝殻の種類が、英語と日本語で表示されています。このセンターで展示されている出土品には、角や骨を彫った装飾品、角でできた石鏃や銚の先端などの狩りの道具、および鞍形石皿のすり石を含むすり石などがあります。すり石は体験コーナーに展示されており、自由に手にとって調べることができます。このセンターへの入場は無料です。

関連遺跡

入江・高砂貝塚（入江貝塚）[\[リンク\]](#) と入江・高砂貝塚（高砂貝塚）[\[リンク\]](#) は、北黄金貝塚から車で30分です。これら2つの遺跡でも貝塚が見つかっています。大船遺跡 [\[リンク\]](#) と垣ノ島遺跡 [\[リンク\]](#) は、内浦湾の反対側にある大規模な遺跡です。函館市縄文文化交流センター [\[リンク\]](#) は、これら2つの遺跡からの出土品を展示しており、北日本における先史時代の暮らしの全体を概観できます。